授業科目　装具実習Ⅰ（体幹装具実習）

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	義肢装具自立支援学科
月城慶一、坂井一浩、阿部 薫、加藤博務	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	3	時間数	135

【<概要>又は<一般目標：ＧＩＯ>】

装具Ⅰ(体幹装具)で習得した知識を基盤とし、講義/実演/実習を通じて体幹装具臨床工程を的確に行える技能を身につける。
(このコースでは2種のLSOを適合まで行い、2種のTLSOについて陽性モデル修正まで行う。また、既製品COの装着法を行う。)

【<学習目標>又は<行動目標：ＳＢＯ>】

1. 体幹装具の使用目的を正しく理解するために、医師及びリハビリテーションスタッフと円滑なコミュニケーションが行える。
2. 体幹装具に関わる各臨床工程において、対象者への説明が的確に行える。
3. 対象者の安全性とプライバシー、及び義肢装具士の作業効率に配慮した作業環境を設定することができる。
4. 対象者の身体機能等、体幹装具の設計に必要な情報収集(＝評価)を的確に行うことができる。
5. 対象者の個別条件に対応した体幹装具のデザイン、材料、コンポーネントを選択できる。
6. 適切な体幹装具のアライメントを理解し、それを採型/採寸/トレース及び装具の組立て作業に反映できる。
7. 体幹装具のチェック・アウトが的確に行える。
8. 体幹装具装着における問題点について正しく対処できる。

日数	授業計画又は学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	LSO：腰仙椎の機能解剖	(復習)	講義(すべての担当教員)
	LSO：腰仙椎疾患の診断/評価と治療	1,4	講義と実演(すべての担当教員)
	以下、同モデルを用いMold TypeとDamen Corsetを併行して行う。		
2	LSO：腰仙椎装具の臨床工程１：評価、設計、採型と採寸	2,3,4,5,6	講義と実演(すべての担当教員)
3	LSO：腰仙椎装具の臨床工程１：評価、設計、採型と採寸	2,3,4,5,6	実習(学生)
4	LSO：腰仙椎装具の臨床工程２：陽性モデル修正	6	講義と実演(すべての担当教員)
5	LSO：腰仙椎装具の臨床工程３：製作	6	実演(すべての担当教員)
6	〃	〃	〃
7	LSO：腰仙椎装具の臨床工程４：仮合せプロトコール、適合上の問題解決	1,2,3,7,8	講義と実演(すべての担当教員)
8	LSO：腰仙椎装具の臨床工程５：仕上げ作業、適合チェック、フォローアップ・プラン	1,2,3,7,8	講義と実演(すべての担当教員)
9	TLSO：胸腰仙椎の機能解剖		講義(すべての担当教員)
	TLSO：胸腰仙椎疾患の診断/評価と治療	1,4	講義と実演(すべての担当教員)
	以下、Mold Jacketと側彎症装具を併行して行う。		
	TLSO：胸腰仙椎装具の臨床工程１：評価、設計、採型と採寸	2,3,4,5,6	講義と実演(すべての担当教員)
10	TLSO：胸腰仙椎装具の臨床工程１：評価、設計、採型と採寸	2,3,4,5,6	実習(学生)
11	TLSO：胸腰仙椎装具の臨床工程２：陽性モデル修正	6	実演(すべての担当教員)
12	TLSO：胸腰仙椎装具の臨床工程３：陽性モデル修正	6	実習(学生)
13	CO：頚椎の機能解剖	(復習)	講義(すべての担当教員)
	CO：頚椎疾患の診断/評価と治療	1,4	講義と実演(すべての担当教員)
	以下、既製の各種頚椎装具を中心に取り上げる。		
	CO：各種頚椎装具の適合方法、留意点とチェックアウト・プロトコール	1,2,3,7,8	実演(すべての担当教員)
14	科目実技試験		

【使用図書】	<書名> <著者名> <発行所> <発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	<装具学 (医歯薬出版) ¥6.200- > <新編装具治療マニュアル (医歯薬出版) ¥7.000- >
参考書	<Orthotics And Prosthetics in Rehabilitation> <Michelle M. Lusardi et al.> <ATLAS of Orthoses and Assistive Devices> <Bertam Goldberg, et al.> <Biomechanical basis of Orthotic Management> <P. Bowker, et al.>
その他の資料	上記教科書あるいは参考書の要点を抜粋した紙資料、プレゼンテーション

【評価方法】

評価の構成は、①実習の連続的な課題に対する評価(計40%)及び②科目実技試験(60%)とし、合格点は①＋②の合計が60%以上の場合とする。

【履修上の留意点】

学生の実習では学生同士がモデルとなって行うが、馴れ合いにならず、臨床現場で患者/障害者を実際に扱うつもりで臨むこと。
学生同士が製作した装具の装着体験と通じ、装具装着によって生じる生活動作への制限等を知ることにより、臨床現場においても使用者への説明が的確に行えるようにすることも本実習の目的となる。